

「家庭菜園の害虫とスズメバチのお話」(平成30年8月12日開催)

講師：池田 二三高さん(野路会) 参加者：12名

講座ではハチの種類、主にコガタスズメバチの巣の成り立ちや生活史、ハチに刺されないための知識や害虫についてのお話がありました。開催日は夏休み期間中のため、自由研究のためにと熱心にお話を聞いているご家族もいらっしゃいました。

1 講師の紹介

講師の池田二三高さんは、農作物害虫の生態(せいたい)や駆除方法(くじょほうほう)を研究している害虫の専門家です。

2 ハチの仲間

ハチには、巣を作らないハチと巣を作るハチがいます。巣を作らないハチは刺すことはありません。巣を作るハチでも、母バチ1匹で子育てするハチは、にぎらなければ刺しません。巣を作るハチで集団で子育てするハチは刺します。

3 コガタスズメバチの巣の発達

まず女王バチが1匹で巣を作り、その後、数十匹の働きバチが巣を大きくしていきます。最後には100匹以上の働きバチが、まるでアパートのように4段にもなる大きな巣を完成させます。貝がら模様のように見える巣の外側は木くずや木の皮からできています。黒く見えるところは水をはじくヤニが使われ、丈夫に作られています。

4 コガタスズメバチの家族構成と役割

働きバチ(メス)は体の大きさによって仕事を分担していて、小さな働きバチは巣作り、巣のそうじ、幼虫やオスバチの世話などを行います。大きな働きバチは外に出てエサ集めをしたり、エサ場や巣を守るために敵と戦ったりします。ハチの家族構成の中では2~3割しかいない働きバチは翅(はね)がボロボロになるまで働き、針もなく働かないオスバチが全体の7~8割を占めているそうです。

5 ハチに刺されないためには

ハチに刺されやすいのは、人が巣やエサ場に近づいたときです。また、化粧品などの甘いにおいや黒っぽい服装をしていると、より刺されやすいようです。特に9~10月は注意が必要です。

6 害虫のお話

家庭菜園の害虫について、現在対策に一番困っているのは海外から入ってきた害虫(外来種)で、昔から日本にいた害虫(在来種)は少なくなっているとのことです。

近年の気温上昇にもその一因があります。在来種が適応(生長・繁殖(はんしょく))できる平均気温を超えても、外来種(ほとんど東南アジアから)は適応します。このままでは、外来種の害虫ばかりが増えることになってしまうそうです。

講師の池田二三高さん



アシナガバチの巣



コガタズズメバチの巣 (初期巣)



コガタズズメバチの巣



コガタズズメバチ (左:オス 右:メス)



受講風景

